

Alternaria dianthi の
有害動植物リスク分析

平成 24 年 2 月

横浜植物防疫所

第1章 ステージ1：*Alternaria dianthi*に関する有害動植物リスク分析の開始

1-1 開始：（開始するに至った問題の本質、目的）

Alternaria dianthi は現在検疫有害動植物として取り扱われているが、検疫有害動植物については、平成16年5月21日に公表された「植物検疫に関する研究会報告書」で「検疫有害動植物については、輸入植物の用途や輸送形態も考慮し、可能な限りリスクの定量的な評価を含めて、適時適切なPRA（有害動植物リスク分析）を実施し、それぞれのリスクに応じた措置となるよう検証し、対応していくことが適当。」とされた。

このため、*Alternaria dianthi* の有害動植物リスク分析を見直すこととした。

1-2 有害動植物リスク分析地域の特定

日本全域と特定する。

1-3 対象となる経路及び潜在的検疫有害動植物

1-3-1 経路

Alternaria dianthi が発生する地域から輸入される宿主植物を経路と特定する。

1-3-2 潜在的検疫有害動植物

Alternaria dianthi を潜在的検疫有害動植物と特定する。

1-4 情報

生物学的な情報は、別紙のとおり。

1-5 開始の結論

検疫有害動植物の取り扱いについては、「植物検疫に関する研究会報告書」において、付着する植物の用途や輸送形態を考慮しつつ、随時適切な有害動植物リスク分析を実施する旨の指摘があったことから、有害動植物リスク分析を実施する必要性が生じた。

本種を潜在的検疫有害動植物と特定し、また、本種の発生国の宿主植物を経路と特定し、我が国全域を対象として、植物検疫措置に関する国際基準 No. 11「検疫有害動植物のための有害動植物リスク分析」（以下「国際基準」という。）に基づき、有害動植物リスク分析を開始する。

第2章 ステージ2：有害動植物リスク評価

2-1 植物検疫上の取り扱いに影響する *Alternaria dianthi* の特性等

2-1-1 系統

植物検疫上考慮すべき系統に関する情報は見つからなかった。

2-1-2 未発生有害動植物のベクター

ベクターとなることに関する情報は見つからなかった。

2-1-3 日本での分布状況及び公的防除の有無

Alternaria dianthi は、日本に一般的に分布している。

本種は、公的防除の対象ではない。

2-1の結論

Alternaria dianthi は、日本に一般的に分布し、国内に存在する菌と国外に存在する菌の間で寄主植物の被害に差があるとの情報はない。また、本菌は公的防除の対象ではなく、その対象とする計画もないため、検疫有害動植物に該当せず、非検疫有害動植物と位置づけられる。よって、有害動植物リスク分析は中止する。

和名：	カーネーション斑点病菌 ⁵⁾
学名：	<i>Alternaria dianthi</i> Stevens & Hall ⁵⁾
分類：	プレオスポラ目 (Pleosporales) ¹⁾
	プレオスポラ科 (Pleosporaceae) ¹⁾

分布：日本、台湾、マレーシア、タイ、インド等のアジア地域、デンマーク、フランス、ドイツ、ギリシャ、ポーランド、スペイン等のヨーロッパ地域、エジプト、モロッコ、南アフリカ等のアフリカ諸国、カナダ、アメリカ合衆国、ジャマイカ、プエルトリコ、ブラジル及びオーストラリア、ニュージーランド等世界に広く分布³⁾。

宿主植物：ナデシコ(*Dianthus*)属、カスミソウ(*Gypsophila*)属、シャボンソウ(*Saponaria*)属などのナデシコ科、オクラ²⁾

形態・生態：糸状菌の一種で、不完全菌類に属し、分生子を生じる。分生子柄は束状に叢生し、分岐せず、淡オリーブ褐色、長さ $20 \sim 50 \times 5 \sim 8 \mu\text{m}$ 。分生子は分生子柄頂部から生じ、褐色～オリーブ褐色、表面平滑、円錐形～倒棍棒形、嚢胞（くちばし）を有し、最大10個までの横隔壁と最大9個までの縦隔壁を有す。大きさは $30 \sim 120 \times 10 \sim 25 \mu\text{m}$ 。²⁾
罹病植物残渣とともに越冬する。病斑上に形成された分生子が風雨や灌水により飛散して伝染する⁴⁾。

病徴・被害：葉、茎、つぼみのがくなどに発生。葉でははじめ下葉に油浸状の小斑点が現れる。やがてこの斑点は大きくなり、淡黄色～淡褐色で円形～楕円形となる。病勢が進むと病斑部が捻れ枯死する。茎では分枝した茎に発生し、侵された部分は変色し、やがてしおれて枯死する。病斑上には黒色、すす状のかびがみられる。罹病株は下葉から枯れ上がる。²⁾

系統：異なる系統が存在するとの情報はない。また、日本国内及び海外で宿主植物への被害の違いに関する情報はない^{2), 4)}。

防除法：カーネーション等において斑点病に対する登録農薬がある。⁷⁾ 耕種的防除としては、無病苗を使用し、発病したら発病葉の除去処分などのほ場の衛生管理を徹底する。薬剤の防除では、採穂前の散布が効果的である⁶⁾。

文献：1) Agricultural Research Service (2011) Fungal Databases. ARS, USDA.
(<http://nt.ars-grin.gov/fungaldatabases/>)
2) CAB International (1988) CMI Descriptions of pathogenic fungi and bacteria No.952. CABI.
3) CAB International (1988) Distribution maps of plant diseases, No.589. CABI.
4) 岸國平 編 (1998) 日本植物病害大辞典. 全国農村教育協会、東京：1276pp.
5) 日本植物病理学会 編 (2000) 日本植物病名目録. 日本植物防疫協会、東京：857pp.
6) 農文協 編 (2008) 原色花卉病虫害百科 1. 農山漁村文化協会、東京：647pp.
7) 独立行政法人農林水産消費安全技術センター (2011) 農薬登録情報検索システム. (<http://www.acis.famnic.go.jp/>)